

研修名 自然体験

令和2年1月21日（火） 12：45～16：15

講演 「生き物っておもしろいPARTⅢ」

講師 大阪市立自然史博物館 外来研究員 NPO 法人自然史センター

1 講演要旨

1) 動物園や水族館での見学に役立つ豆知識（講義）

キリン

- ・どうして首が長いのか…高いところの葉を食べるため、首だけでなく足も長く発達した。キリンは胸の骨も首として使って支えている。哺乳類の首の骨は7本。人間もキリン同じ本数。
- ・水を飲むときはどうしている？…前足を開いて首を降ろしている。足を折り曲げてしまうと、すぐに逃げられないため。
- ・斑点はどうしてあるのか…斑点についての資料は少ないが、子キリンは丸みのある斑点を持つ者のほうが生き残りやすい。

シマウマ

- ・シマウマはどうして縞々？…昔は、肉食動物の目が悪いからシマシマだと見つかりにくい。体温調節の為などの理由が考えられていたが、現在、最も有力な説が、ハエ等の虫が寄りづらい為が考えられている。

2) 恐竜の絵本と恐竜の紹介

Dinos(恐ろしい)+Sauria (トカゲ)

恐竜の定義…主に陸上の爬虫類。4本または2本の後ろ足を体の真下に伸ばして立ち上がることができる。

※水中で暮らしているのは、海生爬虫類。

※プテラノドンも独立したグループ。

「アンモナイト」

- ・よくオウムガイが似ている生物として挙げられるが、イカ・タコが一番近い。
- ・化石では、殻ばかり見つかり中身は出ていない。その理由や、原因は未だ解明されていない。

3) アンモナイトの型取り (グループに分かれて交流しながらのレプリカづくり)

- ・化石の観察…本物をグループに一つ配り観察をする。
- ・シリコンによる型 (キャスト) づくり。
- ・型えお使いレプリカづくり (粘土の種類と特徴)
- ① 油粘土…時間が経っても固まらない。
- ② 石粉粘土…時間が経つと固まる。
- ③ 石膏…早い時間で硬くなり、だんだんもっと固くなる。
- ・講師が用意したレジン性のレプリカに色付け

☆安全に使える材料

石けん粘土・型取り用にシリコン食品用を使用

○実際に使用した製品

キャストの素材…ブルーミックスパテ

レプリカづくりの型…ワッカーデンタルシリコン

油粘土…ほいくねんど

石粉粘土…GSI クレオス

石膏…サクラ焼石膏

レジン樹脂…造形村モメキャストホワイト

4) 化石の取り方

- ・石を割って出てきた化石を調べる
- ・化石がはずれた跡、足跡のくぼみの形を調べる。

どちらも化石を知る貴重な情報である。

2 感想

前半は、身近な動物たちの豆知識から始まったが講師の西澤氏が一言目に「大人の当たり前は子どもにとっては不思議」と仰り、これは子どもたちと関わる内では、いつどこでも心掛けておかなければならないと改めて感じながら講義を聞いていた。そのようにして聞く内容にはどこか新鮮味を感じ、当たり前の中からたくさんの疑問や不思議が沸いてきた。これらを子どもたちと共有していければと思う。恐竜、アンモナイトなどの昔にいた生物は、知らないことだらけで、本当に存在していたのかな？と感じてしまうところだが、地球に存在する生き物の今をつくりあげてきた1つであると考えたと奥が深く興味が湧く研修であった。

(記録 なかよし保育園 山下 陽)